毎日歌壇

水原紫苑 選

米粒のひとつにまでも神さまがいるこの国の自殺件数　千葉市　芍　薬

〈評〉数限りない米粒のひとつひとつにいる神々は、人間の運命とは関わらないと決めているのだろうか。

ひとまわり孤独に見えるタクシーが夜の港湾道路から来る　横浜市　永永　キヌ

〈評〉モノにも魂があり、孤独がある。港湾道路で何を見たタクシーか。

沈みゆく船に残れる楽団の如くに月を見上げていたり　松原市　たろりずむ

身体に数多の月を持つゆえに人は夜ごとに其れを眺める　ふじみ野市　雨雨雨汰

二分され「やっと」「やっと」とそれぞれが白く笑って仰向く林檎　福津市　原田　冬

着慣れない赤き服など水底の秋の街では着てみたくなる　東京　松澤　もる

ひとつまたひとつ夜空は星を捨て明け渡された青きキャンバス　東京　音羽　凜

見えるものも見えないものも流星のその一線が貫き通す　横浜市　安西　大樹

空中で指を伸ばして手ざわりを確かめてみる上海の月　中国　岸　志帆莉

羽撃けば飛ばねばならぬ鳥たちのさびしさを知る霜月の風　名古屋市　浅井　克宏

伊藤一彦 選

絶対に自分は間違えていると信じる人の言葉は強い　浜松市　尾内甲太郎

〈評〉責任者で「絶対に自分は正しい」と言い張る人のいかに多いか。率直に自分の間違いを認める人の言葉の強さを歌う。

用足しの度に外に出て月探る百三歳で見る十三夜の月　和歌山市　津田倭文香

〈評〉「十三夜の月」がいい。きっと人生に感謝しながら仰いでいる月に違いない。

自転車でじいちゃん走るその後に車七台引き連れている　吉野川市　喜島　成幸

金に金を稼がせよという広告が揺れてる稲穂の揺れぬ都心に　沼田市　山崎　杜人

それぞれの家庭を演奏し始めてオルゴールめくマンションの窓　カナダ　よだか

苦しかりし戦後の日本と重ね見る廃墟となりしガザの町並み　東大阪市　池中　健一

背後から迫る声聞く知らぬふりして生きるのかパレスチナ見て　筑紫野市　二宮　正博

感謝など余裕あるときしかできず今日も私はハリネズミなり　奈良市　久保　祐子

何事も効果は人により違う教育然り育毛剤も　塩釜市　高橋　永喜

初雪はまだかと朝の食卓にストーブの声しずかに響く　札幌市　住吉和歌子

米川千嘉子 選

あなたはもっと人を信じてみてもいいと誕生日に母の手紙の二枚　京都市　小池ひろみ

〈評〉ありきたりの祝福や励ましとはひと味違う母の言葉。それを確かに受け止められる作者への信頼あってのことだ。

溝蕎麦か鰻つかみか矢の根草かコンペイ糖に似たる花咲く　鶴岡市　大沼　葉子

〈評〉三つとも湿った場所が好きな草。名前をあげただけで何か豊かで楽しい。

古稀近く共働きを味わって忙しい時代に少し追いつく　駒ケ根市　市山　利也

人参があまりに高くて買わず来ぬ今日のカレーは元気ない色　桜川市　海老原順子

故郷無し　白飯にのる梅干しもレンジで温められて熱々　枚方市　久保　哲也

ねじばねを螺子発条と書き製品の品質誇る町工場展　瑞穂市　渡部　芳郎

不倫多き職場と噂が流れ来る　我も不倫を疑われおり　千葉市　佐藤　綾子

バスの来ぬバス停で待つひとたちを乗せて時間はゆっくり進む　ふじみ野市　雨雨雨汰

おいしいとひと匙ごとに声に出す母の咀嚼を待つ薄き粥　神戸市　中林　照明

荒畑の葛の一葉で汗ふけば切なく浮かぶいにしえの人　京丹後市　縄手　隆雄

加藤治郎 選

パソコンが立ち上がるまでの数秒間海の夜明けのように一点見つめ　東京　新井　将

〈評〉ディスプレイは真っ暗である。やがて水平線に朝日が見えるだろう。ちょっと緊張する。自然の風景を美しく重ねた。

おかしいな鼓動ばかりが速くなる、修理して！誰か！早く！私を　横浜市　砂月　七

〈評〉私はどうなってしまったのか。混乱している。修理に切迫感とユーモアがある。

おれがおれのいないところでなんて言われてるか知ってるか？っておれに言いたい銀箔の月夜　横浜市　永永　キヌ

ひとりきり見上げる空の雲は影今日のお昼はコンソメスープ　戸田市　水沢わさび

私には終わり方しかわからない　海に落ちゆく一粒の雪　町田市　相模　透

街角の廃墟の闇に眠りゆくかつては光であり言の葉　札幌市　住吉和歌子

僕たちの静かな末路　見上げればフロントガラスに降りしきる花　川崎市　何村　俊秋

君からの急な誘いに走り出す　なるべく綺麗なほうの上着で　横浜市　荒田絵里子

教科書の最後のページに窓があり訓練校から社会が見えた　ふじみ野市　雨雨雨汰

蟹の足一本あれば幸せな味噌汁となり語る色々　明石市　小田　慶喜

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

こちらから投稿できます